堺市役所へ寄附を申出でたるが。偶々同人の母親は病氣で臥床中なりしが。正一が餘りに同行を促せしに依り。止むを得ず病を押して同伴來廳したる趣を語り居たり。堺市立錦尋常小學校五年生志治貞雄は、平素溫厚にして、學業の成績も非常に良く、常に級中の模範生として推奬され居たるが。一日或る動機より、自己の勞力より得たる金は、壹錢たりとも徒費することなく蓄へ置きて、有意義に使はんものと思ひたち、本年四月より實行し九月に至り其の額六圓となれり。時偶々關東地方の大震災大慘害の新聞記事を見て、子供ながら同情の念禁じ難く、日頃の貯金は、かゝる時に使ひてこそ價値あるべしと。母及叔父に（父は二、三年前に死亡し、叔父は貞雄の後見を爲し居れり）其の旨を告げたるに。兩人も大ひに其の志を賛へ、希望通り貯金の半額參圓を引出し、學校へ寄附の手續方を依頼したれば、學校に於ても奇特なりとし、市役所へ寄附の手續を了したり。

○托鉢して喜捨金を寄贈

堺市淨土宗各寺院四十八箇寺の住職は、九月七日より十一日迄五日間、毎夜大擧して市内を托鉢し。其の喜捨金五百拾圓七拾貳錢と、各寺院の救恤金貳百四拾壹圓と合併して、泉州日報社へ寄託した。

○個人の臨時救援團

堺市、市之町西岡久三郎は、大震災の慘害の甚大なるを聞くや、同情の念其の頂天に達し。個人的に臨時救援團を組織して。慰問品の大募集に着手し、不眠不休の狀態にて東奔西奔せし爲め、其の熱誠に動かされて市民の同情大に集まり。寄贈物品の點數七千を算し、其の價格壹萬圓に達せり。即ち堺市救援部より大阪府を經て震災地へ寄贈したるが。同人は其後責任上、自己の手に依りて募集せし物品の配給狀況を視察する爲め、震災地を巡歷し。且つ各方面罹災者を慰問し、大阪府の救援事業の充分に行屆けると、自己の寄贈品の夫々配給せられ居るを確めて歸來し。寄贈關係者に顚末報告を兼ね挨拶狀を送りしが。同人の此の間に於ける活動は實に模範的で、推奬するに餘りあるものであつた。

○奇特な中華民國人

西成郡鷺洲町浦江七百七十一番地に居住する、中華民國人にして理髮業を營める任松山は、同國の同業者と相謀り、金八百七拾參圓五拾錢を鷺洲町役場へ寄贈方を申出たるが。外國人にして其の各自の出金額が、一般同町民の出金額を超へ。且つ其の業體並に生活狀態より見るも、寧ろ不相應の義捐を爲せるものにして洵に奇特なりとし。同町役場に於ては厚く感謝して受領せり。

○青年團の義捐金

西成郡鷺洲町塚本青年分團員は他の勸誘を俟たず、自發的に金壹百圓を町役場へ提出せしが、金

額の多寡は別として、該義捐金は、豫て阪神急行電鐵株式會社より青年分團に、居村地域内の電燈料集金を、又貸家所有者より家賃の集金を、各囑託されたる報酬金及び春秋二季の運動會を見合せ、節約せし金を寄附せしものにして、其の行爲は洵に奇特と云はねばならぬ。

○二錢三錢と永い間に苦心して貯へた金を惜氣もなく義捐

南河内郡川上村字河合寺の古刹河合寺田村宥玉方の同居人福地りんと云ふ當年七十歳の老婆は、深く大震災の罹災者に同情し。二錢三錢と永い間に貯へた、虎の子のやうに大切にして居た貯金拾圓を、惜氣もなく差し出して「甚うか地震で困つて居る人等を救ふてあげて下さい」と長野分署へ持參して行つたのを。加藤分署長は警察で扱はぬではないが、本郡では義捐金の總てが、役場で扱ふ事になつて居るからと、其の手續きをして。本人を川上村役場へ出頭持參させた。老婆の行爲は洵に貧者の一燈である。

○八年間の辛苦の結晶を全部義捐

九月三日の午後三時過ぎ、汚れた木綿着に、古い帽子を被つた一人の若者が、泉北郡東陶器村役場を訪づれて。村長さん少し許りですが震災地へ義捐したひ、取次で貰へませうか、是から貯金を出して來ますと通帳を持ちながら云ふた。村長がよろしいと云ふと。彼は直ぐ郵便局に走つた、間もなく歸つて來て。それではどうぞ是を御願ひしますと、差し出したのは拾圓紙幣三枚である。

吃驚した村長は一寸受取るのに躊躇した、それもその筈である。彼の家庭なり、彼の生立なりを、最も能く知る村長は參拾錢か五拾錢、せひぜひ壹圓の上には出まいと思ふて居たからである。世間の金持から見れば、參拾圓の金は僅であらうが、此の參拾圓はこうした金である。

彼は泉北郡東陶器村大字福田石川由松の次男辰造と云ふ當年十八歳の青年であるが。彼れは十歳の頃より貧苦の中で自分の働き出した金の内より、父から貰ひ受くる小使錢を少しも無駄使ひせず、貯金したのが八年間に八拾圓に達した。至孝な彼れは父の老後を安んずべく、今より二十日程前帝國生命保險會社へ千圓の保險契約を爲し。第壹回の掛金として、其の内の五拾圓を拂ひ出した、これは其の殘りの參拾圓である。彼れはもう少し保險の加入が遲れて居たなら、八拾圓全部を使つて頂くのにと云ふて居たとのことである、八箇年間の粒々辛苦の結晶たる彼の貯金通帳も、今は全く空虛となつたのである。彼の母は今を去る七年前當時十二歳の辰造と七歳と四歳の女兒を遺して、當年流行の窒扶斯に罹つて死亡した。

父の由松は、元來裕ならぬ暮しの上に、妻が永病ひの末に三人の幼兒を遺して死亡したので、一時は途方に暮れたのであるが。子供に繼母の苦を嘗めさせまいとの心遣ひから。人の勸めを斷つて爾來二度の妻帶をせず。己れの職業である薪炭小賣に精を出し、漸く親子四人の糊口を凌ひで來たのである。此の慈愛に富んだ親の下に。貧しきながら平和に圓滿に育つた、子供の心に優し

い、人情美の生れるのは蓋し自然である。彼れは小學校を終へると、直ぐに高野鐵道長野驛に、驛夫見習ひに雇はれること、なつたが。夜は村の夜學校に缺かさず通學し。晝は驛から歸ると直ぐ小倉服を農衣に更へ、父が薪炭商の傍ら從事する農業の手傳ひを爲し、寸時も空費せずに働ひた、そうして貯へた參拾圓である。愈々受取つた時村長は泣いた。

此の話が村長より小學兒童に、兒童より父兄にと洽く全村に傳はつた。郡より割當てられた村の義捐金額參百圓は見る々々超過して、締切期日の來ぬ前に五百五拾餘圓に達したのであつた。

彼れ父子の溫情と此の美擧が。深く村民の心を刺戟し感動せしめた結果であるのは云ふ迄もない。父の由松は別に村民の一人として、金貳圓を義捐した。

○木賃宿の主人と御客の義捐

府下泉北郡舳松村金田幸吉は、同村内の小栗街道筋に借家して、木賃宿を業とせる者なるが。這回の震災の報を聞き、同情の念押へ難く、一日村長を訪ひ、金百圓の義捐申込を爲せり。當時同家滯在中の西山繁藏、越智喜之助の兩名は勞働に從事し、僅かの賃錢を得る者なるが。前記金田幸吉の義擧に感じ、自發的に西山は拾圓、越智は貳圓の義捐申込をなしたり。元來此の村は餘り裕かならぬ人が多く。村内一廉の者にして、平均五拾錢程度の義捐を爲したに過ぎざりしが。木賃宿の主人が百圓、其の家の御客が拾圓と貳圓を出したと云ふことは、奇特の至りで。美しい同情、

溫き人間愛の心が、木賃宿に溢れて居た。

○東京行を見合せた爲め、震災を免れて、旅費を義捐

中河内郡小阪村大字上小阪飯尾政吉は、農業の傍ら、其の日稼ぎの荷馬車挽きを生業とせる者なるが。家族八人を有し、生計もとより豊かならざるも、平素より非常なる質素勤儉を爲し、多少の貯蓄を爲し居りたるが、震災前二男由松の切なる希望に依り、同人を東京自動車學校へ入學せしむること、なり。既に其の準備を整へ居りしに、偶々引止むる者ありて東上を見合すこと、なりし爲め。今回の震災を免かれたりとし。一入同情の念厚く、旅費其の他の費用に用意しありたる、金五拾圓を全部義捐せり。

○奇特な女中の義捐

中河内郡小阪村大字中小阪、久野次郎太郎方女中丸川ハルヱ(三十五才)は、今回の義捐金募集に係員が同家を訪ひ、其の意を通じたるに。久野は金拾圓を義捐し、係員は滿足して辭去せんとするや同女は倉徨係員を呼止め、之は妾の寸志なりとて金五圓を義捐したり。聞く處に依れば同人は、主人より毎月僅かばかりの小使錢を貰ひ受け、貯蓄し居りしを、義捐したるものなりと。

○寺守の寡婦の義捐

中河内郡八尾町大字八尾名畑きん(明治十二年生)は寡婦にして、小寺院の留守居を爲し居るもの

なるが。豫て些少なる志納金を蓄積しつゝありしに、八尾町に於て義捐金を募集せるを聞き。豫ての貯金に衣類を賣却して、金五拾圓を調へ他に率先して義捐せり。

○主人の幼兒を故郷へ伴ひ歸つた忠婢

豐能郡萱野村大字白島、中村龜吉の長女フジ二十二才は、大正十二年二月頃より東京市深川區洲崎辨天町二丁目福井佐一方の家婢に雇はれ、間もなく今回の大震災に遭ひ、同人も一旦逃れ出でしが。家に主人の嫡男にて生後六ヶ月の乳兒の臥し居れるに氣付き、再び家内に引返へし、辛ふじて救ひ出たせしも。此の間に主人の家族を見失ひ、彷徨する内、焰々たる猛火の襲ひ來りしより乳兒を犇と抱きたるまゝ無我無中に驅け廻はり、漸く安全地帶に遁れ出で。其後は所々にて救護を受け、途中十餘日を費し、名狀すべからざる艱難辛苦を嘗めつゝ、乳兒を擁護して無事歸郷せしが、誠に稀なる忠婢として郷黨の賞讃を受け居れり。

○酒造業の雇人が匿名の寄附

豐能郡豐中村大字岡町酒造業良本敬太郎方雇人、谷田新吉(十八才)は關東大震災の報を聞き、主人に向ひ豫て預けある貯金の内より、金五拾圓を借用し度旨申出たるより。主人は其の用途を尋ねしも明答せざりしが、再三の質問により遂に震災義捐に應じ度旨答へたるより。主人も其の美はしき同情心に感動し。其の志は結構なれども僅かの貯金より五拾圓を引出せば、殘りもなくなる

ことなれば、此の際は先づ取敢へず拾圓丈寄附せよとて、金十圓を與へたるに、同人は直に村役場に到り、義捐の内へ差出し其儘歸宅せんとせしより。係員は住所氏名を尋ねしも遂に答へず歸宅せり。其の後調査の結果、前記の事情判明し、村當局者も特に感謝の意を表せりと。

○雇人の義捐主人を感動せしむ

豐能郡西郷村大字片山、吉村和三郎(明治二十八年十二月生)は、奉公先きなる三島郡茨木町に於て關東大震災の報を聞き、一雇人の身を以て直に金百圓と衣類十七點を三島郡役所に卽納したるに、主人川勝百太郎も亦直に金六百圓を義捐せしが、之れ全く雇人和三郎の志に感奮せしに因るものなりと云へり。

○奇特の小學生徒

東平野第二小學校六年生の小出初枝は、兄はパイプ職、自分は刷子の柄磨きをして五拾錢の日給を受け、細々一家の煙を立てゝゐるが。今度の震災を耳にするや、自分の貯金から九圓五拾錢引出し。兄から五拾錢を貰ひ都合拾圓にして、「哀れな方々へ贈つて下さい」と受持教師の前へ差出した。

○奇特な青年團指導者

西區靱青年團の副團長中田秀次郎氏は、今度の震災を聞くや眞先に救恤義金として、參百圓を投

出したのみか、團員と一緒に義金募集に奔走し。數日にして約參千五百圓を募集し、更に横濱から來た避難者を築港に迎へて、之が慰問に努めると共に、毛布三千枚を寄贈した。

○服吳仕入のため來阪中なる婦人が匿名の寄附

船場小學校の報告によると、九月三日の夕刻、四十恰好の一婦人が學校へ來て、「私は吳服仕入のため來阪中の者で之はほんの聊かですが震災救援費に充て、下さい」と百圓札を一枚受付口に拋出したまゝ、姓名も名乘らず、そのまゝ何處へか姿を消したさうだ。

○新年祝福の義捐餅

大阪お伽倶樂部では、可憐な關東兒童へ、新年祝福を頒つために。小學校幼稚園、其他一般兒童から震災地コドモ慈善袋を募集中であつたが。豫期以上の義捐金を得たので、百五十石の糯米を購入し。數日前から、市内北區上福島の專修女學校で搗き始め、どし〳〵罹災地に送り屆けてゐるが。それに就いて主宰者朝倉氏は、「各室ともあのやうに山積されたお餅をどうぞ御覽下さい之は皆小さな子供等の同情同愛の發露です殊に今度の主意として一樣に自分のお小遣の中から割いて寄せて下すつたことは何よりも貴く感謝の外はありません鐵道の好意によつて東京へ急送されるのですが幾萬の子供の笑顔が彷彿としてゐます」と滿足げに語つた。

○罹災警察官への同情義捐品

松島小學校内にある佳良會が、罹災警察官の活動に同情して金五千圓を提供、何か適當の慰問品を調達して右警官へ贈つてくれと。全關西婦人聯合會に申込があつたので、詮議の結果、右の金でメリヤスのシャツとヅボン下を調達し。警視廳へは十五函、神奈川縣警察部へは十函を購入、大阪府警察部の好意で無料送附する事となり、九日築港出帆の大阪商船生駒山丸に積込む手筈となつた。

南區末吉橋在住の實業家鈴木房吉氏が、多年實踐し來れる座右訓百數項を輯めて小冊子とせる「處世の伴侶」を精神的救護資料として、一萬部を罹災者へ贈るべく、これ亦全關西婦人聯合會へ寄託されたので、同時に發送する事となつた。

○避難者に宿泊料の割引

大阪福島署管内の旅館及下宿業者は、九日その筋の諒解を得て。避難民で官廳の證明ある者には在來の下宿料、普通を三割最底を二割引、宿泊料一泊參圓を半額に、勞働者には一泊七拾錢均一として、十分便宜を圖る旨發表した。

在鄕軍人會大阪汎愛分會内慈善團は、同部内に震災罹災者が、百八十餘名居住してゐるので。八日夜六時、汎愛小學校々庭で、罹災避難者の慰安會を催した。來會者約三百名、西村分會長挨拶に代へて、避難者に對し衷心同情を披瀝する旨を述べ。次いで若林遞信局技師の貯金に關する講

演ありて後宴に移つたが。松阪屋少年音樂隊その他の餘興あり、一夕の歡をつくし、避難者は熱い同情を感謝しつゝ十時散會した。同夜分會からは避難者一同に、松阪屋の商品切手慰問袋等を贈つた。

第四章　震災避難者調査

大正十二年十月六日十ノ六ノ九號ノ一を以て、後藤臨時震災救護事務局副總裁より本府長官宛左の通り通牒に接したり。

震災避難者調査ニ關スル件

罹災民救護及復興計劃上必要有之候ニ付今回ノ震災ニ依リ震災地ヨリ貴府内ニ避難シタル者ニ關シ其ノ滯留場所ニ就キ左記ノ方法及別紙樣式ニ依リ調査シ其結果ヲ別紙樣式要計表ニ集計整理シ期日後可成速カニ御提出相成度

左　記

一、十一月十五日午前零時現在ヲ標準トシナルベク速カニ調査スルコト

二、調査區ヲ別チ調査員ヲ置ク等便宜適切ナル方法ニ依リ震災ニ因ル避難者ノミニ付其避難シ居ル場所ニ就キ調査スルコト

三、震災避難者ニハ一人毎ニ別紙樣式ノ個人票ヲ配布シ各調査事項ヲ記入セシムルコト

四、右避難者中世帶主又ハ之ニ準ズベキ者（世帶主ガ死亡又ハ行衞不明ノ時ハ其配偶者子弟等生殘レル者ノ中ニテ世帶主ニ代ルベキ者）ニハ個人票ノ外世帶票ヲ配布シ所要ノ事項ヲ記入セシム故ニ震災當時ノ一世帶ニ屬スル者ニシテ方々ニ別レ避難シ居ル場合ハ世帶票ハ世帶主又ハ之ニ準ズベキ者ノ方ヨリノミ提出スルコト學生生徒女工職工旅行者等震災當時下宿屋旅館寄宿舍等ニ在リテ獨立ノ世帶ヲ有セザルモノハ世帶票ノ作製ヲ要セズ

五、世帶票ニハ世帶主又ハ之ニ準ズベキ者ト同一避難場所ニ在ル家族及其世帶ニ屬スル死者行衞不明者ノミニ付世帶人員ヲ計算シ其人員ト之ニ屬スル個人票ノ枚數トヲ對照檢査スルコト

六、震災當時同一世帶内ニアリシ家族ニシテ世帶主又ハ之ニ準ズベキ者ト別個ノ場所ニアル者アルトキハ世帶票ノ備考欄ニ其氏名及場所ヲ記入スルコト

七、世帶主又ハ之ニ準ズベキ者ト別個ノ場所ニ在ル者ハ個人票ノ備考欄ニ世帶主又ハ之ニ準ズベキ者ノ氏名及其場所ヲ記入スルコト

八、記入ハ世帶主又ハ之ニ準ズベキ者記入スルヲ原則トスルモ便宜調査員代筆スルモ差支ナシ但シ調査員ハ其正確ナルヤ否ヤニ付特ニ注意スルコト

九、死者行衞不明者ニ付テハ遺族又ハ調査員代リテ作製シ判明セル事項ノミヲ記入スルコト尙世帶

ノ全員死亡又ハ行衛不明トナレルコト明カナルトキハ調査員ニ於テ知人其他ニ付調査シ世帶票及個人票ヲ作製スルコト

十、市區町村長ハ世帶票ノ調査區欄ニ（番號ヲ別ツトキハ番號トモ）記入シ各調査員ノ受持調査區名（番號ヲ別ツトキハ番號トモ）ヲ記入シ期日前適當ノ期間迄ニ調査員ニ交付スルコト

十一、調査員ハ個人票調査區欄ニ各世帶票ハ同一調査區名ヲ記入シ受持調査區內ノ各世帶每ニ適當ノ順序ニ依リ世帶票及個人票ノ番號欄ニ通番號（同一世帶內ノ個人票ハ世帶票ノ番號ト同一番號トス）ヲ記入シテ各世帶ニ交付シ期日ニ於テ一齊ニ蒐集シ迅速ニ整理スルコト

十二、記入濟ノ票ハ調査員速ニ整理シ區長（大阪京都名古屋ニアリテハ）又ハ町村長ニ提出シ區長町村長ハ迅速正確ニ別紙樣式ノ要計表ニ集計整理シ世帶票個人票ト共ニ市長郡長ニ市長郡長ハ市郡要計表ト共ニ府縣知事ニ府縣知事ハ府縣要計表ト共ニ救護事務局副總裁宛迅速ニ整理提出スルコト

十三、本調査要項及別紙記入心得以外ノ必要ナル手續ノ設定並ニ郡市町村及調査員等ニ對スル本調査要綱其他調査施行上必要ナル指示ハ便宜府縣ニ於テ適當ニ處置スルコト

十四、要計表ハ府縣郡市（區）町村ニ於テ夫々作製スルコト、セルモ迅速作製ノ必要アルヲ以テ小區域（例ヘバ數調査區又ハ一調査區）每ニ作製セシムルモ差支ナシ

十五、要計表ノ世帶數ハ世帶票ノ枚數ト同一ナルベキモ男女別人口ニハ世帶票ト一括セザル個人票（卽チ世帶主又ハ之ニ準ズベキモノト分レテ避難セル家族並ニ學生女工職工旅行者等獨立ノ世帶ヲ有セザリシモノ、個人票）ノ人口ヲモ加フルモノナルニ付集計ノ際注意スルコト

備考　震災當時ノ所在地トハ東京府神奈川縣千葉縣埼玉縣靜岡縣山梨縣茨城縣ノ七府縣ヲ指シ東京府ハ市區郡別ニ他縣ハ市郡別トス

府に於ては北屬外十四名、主として此事務に當る。調査の準備に就ては、時日切迫せるを以て、宣傳用印刷物等は到底其用を爲さゞるにより、主として各新聞社を通じ、其主旨目的調査票、各項の內容等に關する說明を依囑し。各郡市に於ては、町村會、主任者會等を開催し、調査員及從事者を訓練すると同時に、準備調査を施行する等、着々其の功程を進めたり。

調査の實施及其成績に關しては、本府に於て各係を定め。日夜主旨及調査事項の說明に當り、各郡市長亦熱心之れが執行に努力せり。（別紙個人票樣式略）

抑も本調査は其の組織、國勢調査と同一の機關を要するに係らず、經費なく且つ時日に餘裕なく、然かも其の調査の結果、四萬に近き多數を算し。殊に被調査者が常に他出勝なるを以て、之が調査に當りし者は、十一月十四日より十七八日に至る間、實に寢食を忘れて東奔西走し。其困難筆紙に盡すべくもあらず。殊に水面區域の如き、水上警察署長以下二百四十名は、十四日夜半より十五日終

日徹宵之れが任務に當り、六千六百七十三隻に上る多數の船舶と、廣大なる水面を調査したるが如きは、其功績特筆すべきものとす。其結果十二月五日迄に書類悉く到着し。本府は更に之れが檢査として、十二月五日より十二日に至る間、殆んど晝夜を分たず執務したる結果、十二月十三日に至り、提出各表五十餘を完成するを得たり。而して別表は右五十餘表を集約したる一覽表なりとす。次で大正十三年三月三十一日發第五四八號を以て、臨時震災救護事務局より左の通牒に接したるを以て、本府は夫々感謝狀を送付し、本事業を終結するに至れり。

震災調査從事員ニ對シ感謝狀授與ノ件

震災調査ニ從事シタル調査員其他調査關係者ニ對シ感謝狀授與相成別便ヲ以テ二、九三六枚及送付置候條該當者へ授與方相煩度此段及通牒候也

感謝狀寫

何某殿

客年十一月十五日現在ニ依リ實施セル震災調査ニ關シ克ク其趣旨ヲ體シ熱心調査ニ盡瘁セラレ有力ナル資料ヲ得テ善後施設上稗益スル處尠カラズ仍テ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス

大十三年三月三十一日

臨時震災救護事務局長　從四位勳三等　池田宏

郡市別　大阪府

罹災ノ種類	種別	世帶數	死亡者	行衞不明	計	重傷者	輕傷者	無負傷者	計	總計	失職者
全焼		六、五三	八三四	七三四	一、五六八	二四七	一、三三三	二六、〇八	二七、四九八	二九、〇二六	二、九七五
半焼		三六	二		二		三	一八九	一九二	一九四	二四
全潰		四、三三	五五	一三	六七	二九	八九	一、八〇四	一、九三三	一、九八九	一九八
半潰		四九七	二	三	五	四	五七	二、〇五八	二、一二九	二、一三四	八七
流失		九				一	二	四五	四八	四八	二
以上計		七、四八八	八八三	七一九	一、六〇二	二八二	一、三八四	三〇、一二四	三一、七七九	三三、三八一	三、三八〇
破損		三七八	二	二	四	四	三〇	一、八六六	一、八五〇	一、八五四	一三三
無破損		二六八	二		二	二	二〇	一、三〇五	一、三三七	一、三三九	八九
不明											
合計		八、一三四	八八七	七三三	一、六一〇	二八七	一、四二四	三三、八六六	三四、六六七	三六、二七七	三、六〇八

郡市別　大阪市

罹災ノ種類	種別	世帶數	死亡者	行衞不明	計	重傷者	輕傷者	無負傷者	計	總計	失職者
全焼		四、〇一四	五八九	五一	一、一〇〇	一五九	八二	一六、一九六	一七、一六七	一八、二六七	二、〇七四
半焼		二五					二	一三三	一三五	一三五	二〇
全潰		三三四	三	九	四二	一八	六〇	八〇六	八八四	九二五	一〇九
半潰		二七五		二	二	二	三二	一、〇四九	一、〇八三	一、〇八五	一〇六

罹災ノ種類＼郡市別	大阪市																							
種別	世帶數	死亡行衞不明			現存者																			
		死者	行衞不明	計	重傷者	輕傷者	無負傷者	計	總計	失職者	罹災當時ノ所在地	堺市	岸和田市	西成郡	東成郡	三島郡	豐能郡	泉北郡	泉南郡	南河内郡	中河内郡	北河内郡
流失	五										世帶數	二九	三	一、八三	一、三〇三	八〇	一三五	三四	四五	三三	一八五	八一
以上計	四、五四三	六二	五三	一、一四三	一七九	九〇八	二四	二六	二六	二	死亡行衞不明 死者	七		一一〇	一〇七	六〇	一一〇	二二	二	二	一〇	二
破損	三三				三	二	八八〇	九〇四	九〇四	八六	行衞不明	三	一	二二二	一六七	一	七	二	九	六	一六	三
無破損	一四一				一	一四	六六八	六八三	六八三	五一	計	一九	一	一六〇	六〇	一	二	一	二	一	一四	四
不明											重傷者	一五	一	二四	四三	二	一九	五	七	一	一七	三
合計	四、八九七	六二	五三	一、一四三	一八三	九四三	一九、七六六	二〇、八八二	二二、〇二五	二、四四八	輕傷者	二六二	八	二四四	一九五	一五	二四	二四	一八七	一三三	一七	一三三
											無負傷者	二五五	一	一六四	五、九〇七	六四八	五五三	二三三	一九八	一四〇	六七〇	三三〇
											計	五五六	一	一七三	五、一四五	三六五	五五五	二七三	一四六	一四〇	六八六	三三
											總計	五九五	一七四	五、三五七	五、五七八	三七三	五六六	二七三	一四六	一四〇	六八六	三三
											失業者	九三	七	五九七	三三九	三二	七〇	二〇	二五	一八	四八	三

第五章　震災建物被害狀況調査報告

左記報告は大正十二年九月、當府建築技師井上新二、八木幸次郎の兩名が、東京及其附近の震災被害建物を視察して、地震に依る破壞力と建物との關係を、各方面より比較研究したる顚末にして、耐震建築上の參考に資すべきものあるを以て採錄せり。

一、震災ニヨル建物ノ被害狀況

（イ）木造建物

壁面ニ龜裂ヲ生ジ屋根瓦一部剝落セシニ止マリ、被害大ナラズ。淺草、本所、深川各區ノ一部ニ倒壞家屋アリタルハ、建物ノ粗雜ト地盤ノ著シク軟弱ナリシニ起因ス。浦和方面ニテ藁葺家ノ倒壞セルモノアリ、之ハ主トシテ建物腐朽ノ結果ナリ。

（ロ）煉瓦造建物

殆ンド全部倒壞ス。丸ノ内馬場先ナル三菱地所部附近ノ三階煉瓦造ハ、間仕切壁ニ鐵筋アリシ爲メ、災害ヲ免レタリ。

（ハ）鐵筋混凝土構造建物

二、三ノモノヲ除キテ大體被害少シ。

（ニ）鐵骨構造建物

鐵筋混凝土構造ヲ併用セルモノニアリテハ被害ナク、壁面ヲ煉瓦積トセルモノハ、其ノ面上ニ龜裂ヲ生ジ、丸ノ内東京館會ノ如キハ煉瓦壁剝落セリ。

二、火災ニヨル建物ノ被害狀況

（イ）木造建物

烏有ニ歸シ原形ヲ止メズ。

（ロ）煉瓦造建物

屋根ノ木造部燒失シ、内部灰燼ニ歸ス。

（ハ）鐵筋混凝土構造建物

被害ナシ。只窓ニ防火戸ノ設備ナキモノハ、窓ヨリ火焰侵入シ内部ノ木部ヲ燒失ス。但軸部ニ損傷ナシ。

（ニ）鐵骨構造建物

鐵筋混凝土構造建物ノ被害ト同程度ナリ。

今回ノ大震災ニ鑑ミ、耐火耐震構造ノ効果アルコトハ勿論ナルモ、耐火構造ハ材料及設備ノ點ヲ考慮スレバ、相當ノ成果ヲ擧グルニ難カラザレドモ、耐震構造ニ就テハ、益々研究ヲ重ネザルベカラズ。

建物ノ耐震構造トハ、地震ニ因ル破壞力ニ抵抗スベキ、抵抗力ノ大ナルモノヲ云フ。

三、地震ニヨル破壞力ト建物ノ構造トノ關係

（イ）建物ノ重量

建物ノ重量ハ少キ程、振動ノ運動量少キヲ以テ、破壞力ノ大サノミヲ論ズレバ、他ノ構造ニ比シテ木造建物ハ最モ被害少シ。又一建物ニ就イテ論ズレバ、上層ヨリモ下層ニ至ルニ從ヒ、破壞力大ナリ故ニ木造家屋ニ於テハ、二階建ヨリモ平家建ノ方ヲ安全トシ、階下ガ破壞セラル、程度ノ地震ニ遭イテモ、二階ハ原形ヲ止ムルコト多シ。

屋根ハ重キ瓦葺ヨリモ、輕キ「スレート」葺ノ方ヲ安全トス。高層建築ニ於テハ、二階三階最モ破壞力大ナリ、一階ハヨリ以上大ナル破壞力アルモ、大抵ハ外觀上ヨリ、特ニ堅固ニ建築セラル、ヲ以テ、損傷少キヲ普通トス。

（ロ）敷地ノ良否

建物ノ敷地ノ地質ハ、直接振動ニ影響スル所大ニシテ、地質軟弱ナル敷地ハ、硬密ナル敷地ヨリモ振動スルコト大ニシテ、又破壞力偉大ナリ。特別ノ施工ヲ要ス。

（ハ）基礎ノ構造

基礎ノ深サハ破壞力ニ關係アリ、基礎深ケレバ深キ程、建物安全ナリ。地下室ハ振動少ク破壞力小

ナレバ最モ安全ナリ。木造建物ハ基礎淺ク破壞力大ナレドモ、鐵筋混凝土構造建物、鐵骨構造建物ハ、基礎深キノミナラズ、地下室ヲ有スルモノ多キヲ以テ、破壞力最モ少キモノナリ。

（ニ）敷地周圍ノ狀況

敷地周圍ノ狀況ハ大ニ破壞力ト關係ヲ有ス。河岸崖緣ノ敷地ハ振動大ナルモノアリ、然ノミナラズ振動ニヨル崩壞ヲ供フ惧アルヲ以テ危險ナリ。

（ホ）建物ノ形狀

面積ニ比シ高サ甚ダ高キ建物ハ、重心上部ニアリテ不安定ナルノミナラズ、地震ニヨリテ大ナル能率ヲ生ジテ危險ナリ。

幅狹ク長キ大ナル建物ハ、狹キ方ニ振動スル時ハ、前者ト同ジ結果ヲ生ズ。

道路交叉點ニアル如キ整形ノ建物ハ、振動ニ遭ヘバ構造上種々ノ弱點ヲ曝露シ、危險ナルモノナリ。

（ヘ）建物ノ剛度

建物ノ剛度ハ最モ破壞力ト關係アルモノナリ。建物全體トシテ剛度大ナルモノハ、鐵筋混凝土構造ニシテ、建物ガ一體トシテ形成セラル、故ニ、地震ノ場合ハ各部均一ニ振動ス。故ニ破壞ノ惧少シ。煉瓦造ノ如キハ煉瓦ヲ「セメントモルタル」ニテ固メ一體トスレドモ、元來「セメントモルタル」ニテ煉瓦ヲ密着セシムルコトハ、完全ニハ爲シ能ハズシテ、剛度小ナリ。

剛度ニヨリ破壞力ノ多少ヲ論ズレバ、鐵筋混凝土構造及該構造ヲ併用セル鐵骨構造最モ少ク、鐵骨構造木造之ニ次ギ、煉瓦造最モ破壞力大ナリ。

（ト）二種以上ノ材料ヨリ成ル壁ノ構造

鐵骨構造ニテ鐵骨ノ周圍ニ煉瓦ヲ積ミ、又壁體ヲ煉瓦積トシタルガ如キモノハ、鐵骨ト煉瓦トノ振動異ニシテ、脫剝シテ危險ナリ。木造煉瓦造又同ジ。

四、抵抗力ト建物ノ構造トノ關係

（イ）構架全體トシテノ構造

鐵筋混凝土構造ノ如キ建物全體ガ、一ノ架橋トナルモノハ抵抗力大ナリ。木造ニ於テモ筋違方杖燧材等ヲ豐富ニ使用シ、各接合部ヲ金物ニテ堅固ニ緊結セルモノハ、稍完全ナル架橋トナリ、抵抗力ヲ增スモノナリ。

（ロ）架橋ノ局部的構造

鐵筋混凝土構造ニ於テ鐵筋相互ヲ堅固ニ緊結シタルモノ、梁、柱壁等ノ接合部ヲ特ニ堅牢ニ施工セラレタルモノハ、益々抵抗力大トナルナリ。

（ハ）基礎ノ構造

鐵筋混凝土構造ノ如ク基礎深キモノ、又基礎全體ヲ繫梁ヲ以テ堅固ニ緊結シ一體トセルモノ、如キ

ハ、抵抗力頗ル大ナリ。

（二）間仕切壁ノ構造

間仕切壁ハ多キ程建物ノ剛度ヲ増スモノナリ。卽チ抵抗力増加ニ効果アリ。煉瓦ノ如キ材料ニテ造リタル間仕切壁ハ、剛度ニ關係ナク寧ロ危險ナリ。故ニ接合部ヲ密着シ得ル材料卽鐵筋混凝土木材等ニテ造ルベキナリ。

要スルニ耐震耐火的價値ヲ有スル建物ノ構造ハ

一、鐵筋混凝土構造

二、鐵筋混凝土構造ヲ併用セル鐵骨構造

三、鐵骨混凝土構造

鐵骨ヲ混凝土ニテ包メルモノニテ、近時盛ニナラントスル傾向アリ。

但シ以上ノ構造ヲ完全ニ耐火的ニナサントスルタメ、窓入口ニ防火的設備ヲナスノ要アリ。

住宅ノ如キモノハ經濟其他ノ點ヨリ、住宅地域内ニ木造ニテ建築スルヲ可トス。但シ該地域内ニハ諸所ニ防火壁ヲ必要トス。避ケタキハ煉瓦造ナリ。

震災救援事務從事者一覽表

知事　土岐嘉平

知事　中川望

知事官房

主事　理事官　井上英

秘書係

屬　横田清　同　倉橋兵太郎

同　角井德藏　同　藤本安吉

書記　細木監次郎　雇　相田璞二

同　國領忠臣　囑託　佐久間清太郎

文書係

屬　赤松義太郎　同　染矢新藏

同　曾我庄太郎　主事補　岩井虎太郎

書記　七瀨宗次郎　同　岡崎新次郎

同　坪内勝二郎　雇　中村廣吉

同　根岸香三　同　瀨川熊治郎

同　三井矢作　同　蔭山茂樹

雇　渡邊克巳　同　中谷德次郎

同　西井檜一　同　三尾麟太郎

同　矢田敏夫　同　中村仙平次

同　筑山長國　同　保阪種實

統計係

屬　木村淳　同　北三郎

同　松戸定吉　産業主事補　五十野清次郎

同　坂口伊太郎　同　吉永敏夫

同　安本榮治　同　坂卷憲一

同　山本一雄　書記　生澤猶政

雇　渡邊武夫

内務部

内務部長　平賀周

議事課

議事課長　理事官　西尾幾治

屬　中野德松　同　丸島利三郎

雇　田中新次郎　同　平井忠治郎
主事補　前田駒太郎　主事　藤田多作
書記　西山省一　同　石村清吉
同　岸本長治郎　同　矢野諸行
同　福羅竹次郎　同　稲垣廣
同　上阪喜太郎　同　上島勳
主事補　長谷川成利　書記　佐久間治三郎
同　藤井明　同　岡田政市
同　喜田瑛一　同　東川保次
同　矢田政夫　同　十龜親德
同　太田政友　同　中尾義信
同　青木龍造　同　南盤夫
同　藤澤三太郎　同　堀家源次郎
同　木村彦次　同　西村米吉
同　松田竹次郎　同　松原勝千代
同　奥水槇水　同　森田季夫
主事補　田坪種造　書記　中野昇

地方課

地方課長　理事官　白松喜久代

屬　穴澤好松　同　出口安太郎
同　吉田莊太郎　同　馬場篤郎
同　大堀啓三　同　辻尾規矩彦
同　松尾幾太郎　同　小林庄吉
同　中達信一　同　武田勝三郎
書記　勢喜治太郎　同　和田等
技手　畑浦濟美　書記　金光三郎
雇　仲谷鄉良　大阪府自治行政講究會書記　奥西時治郎
元大阪府屬　並川義隆　同　高田賢治郎

學務課

學務課長　理事官　井上英

主事　成田軍平　同　皆吉質
屬兼視學　大谷繁次郎　視學　松岡萬次郎
同　北野勝太郎　屬　西田傳三郎
屬　寺西榮一郎　同　奥野恒治
同　谷澤良助　同　坂口匡平
同　萩原寛次　雇　小串秀治
主事　大島鎭治　同　甲佐知定
書記　河野顯達　同　末廣寛治

書記　大江久五郎　同　南坊城良通
雇　福井米松　大阪府教育會幹事　有山義二
大阪府教育會書記　奥田敏夫

社會課

社會課長　理事官　山崎巖

屬　田中年雄　同　小菅秀直
同　大北樟雄　同　福田龍次郎
同　小寺虎義　同　萩野憲祐
同　石毛隆造　主事　山本茂吉
主事補　伊藤筆吉　同　川村右一
書記　吉岡和一郎　同　白岩政敏
同　豐田三之助　同　多田五平
同　小島孫作　囑託　小河滋次郎
囑託　早崎春香　同　佐藤益三
同　竹内實　濟生會主事　藤岡豐藏
濟生會書記　丹羽政三　同　乾政一
同　鈴江彦太郎　濟生會雇　前田寅吉
職業輔導會主事　水野和一　方面委員囑託　三好有三
方面書記　兒玉幸平　同　香川澤太

方面書記　上島修藏

土木課

土木課長　技師　島重治

道路主事　奥村泰助　屬　大塚濮
屬　國分壽夫　同　木島義龍
同　藤井彌太郎　同　井本俊次
同　平野德松　同　弓庭元一
同　川中九一　技師　佐香源一
技師　與田喜知藏　同　河原常次郎
同　森田虎起　同　前田奥藏
土木技師　右賀壽一　同　國安良一
道路技師　田上憲一　技手　德本一貫
同　井下勝藏　同　橋村直
同　上床義隆　同　高橋惣市
同　高橋恒吉　同　田部義夫
同　中山秀雄　同　長野谷善造
同　飯田時良　道路技手　岡本助太郎
同　福田岩太郎　技手　島貞仁
同　浦崎捨藏　道路技手　富樫清吉

技手　石崎政次郎　同
道路技手　山崎五六　同
技手　又木榮藏　同
同　三田幹夫　同
同　佐藤隆太郎　同
同　木下芳三　道路技手
同　鈴木照仁　同
同　大柴又三　同
同　久世廣太郎　同
同　檜垣增一　同
同　江見敬甫　同
同　太田捨次郎　同
同　黑田初太郎　同
同　西勇兵　同
技手　金田秀　同
同　平井熊太郎　同
同　高田廣一　同
同　桑原八郎　同
同　中村魁次　同
同　西岡英男　土木技手

小澤甚介
樋口武夫
秋山專二
和田勇平
福井昇
川俣庄司
天野博之
初岡太守
角谷秀吉
野口亥子
寺田勘一
石崎載
村田醇
中田久一
井上仁三
城倉知積
岡部佐一郎
吉村健太郎
宮內勘助
川北武夫

土木技手　高岡土松　同
技手　竹內友次郎　同
同　田中源太郎　同
土木技手　白石鎭雄　同
同　松本末吉　同
同　杉原善造　同
同　岡部雅　同
同　伊藤祐龜　同
同　西口善助　同
同　西田渥　同
同　高垣周　同
同　多田定次郎　同
同　野邊德二　同
同　高橋武司　同
同　門野茂忠　同
同　清水惣八　同
同　長崎秀　同
同　井上熊太　同
同　乘次重太郎　同
同　西口榮三郎　同

重久兼吉
長松剛
住吉榮次郎
有田文平
安藤吉次郎
佐々木房吉
仲西傳次郎
那谷半次郎
正木勉
和田博
野手愛三郎
一色數一
藤本外次郎
日笠山榮
寺川千里
加藤義夫
渡邊亮一
松井太
山下幸造
下田一明

土木技手　小林米吉　同
同　堀內圭一　同
同　和田繁雄　道路書記
同　柴谷壽太郎　同
同　岩崎龍章　同
同　阪本幸三郎　土木書記
同　桂安次郎　同
同　久保好太郎　同
同　桂玉吉　同
同　野口坦　同
同　森皎　同
同　尾藤餞作　同
同　竹鼻作次郎　同
同　田頭貞巳　同
書記　湯村五三　同
同　中田利三郎　同
助手　木下熊藏　同
同　八木領一　同
同　高橋敏　同
同　畑山鹿太郎　同

岡田信太郎
阪野清一
中村英太郎
赤木忠晴
橫井一美
齋藤包次郎
石村宗吉
島田十三郎
桑島保
赤土正秀
山口正
坂元照彥
延原金次郎
田近憲隨
黑田正一
足立律郎
得居守男
能見定雄
江村勇吉
水川眞太郎

助手　藤川清人　同
同　木下安一　同
同　三井槌太郎　同
同　宮脇與市左衞門　同
同　朝日奈武治　同
同　田中五市　同
同　川口音松　同
同　小寺巖　同
同　荒起由松　道路書記
道路技手　鈴木美信

橫山英太郎
愛甲兵一
宮地笑兒
橫山朝男
福原勝人
山本義夫
川村德次
惠土音松
千賀常五郎

都市計畫課

都市計畫課長　都市計畫地方委員會事務官兼大阪府理事官　內藤晴三郎
都市計畫地方委員會書記兼大阪府屬　近藤辰三郎
都市計畫地方委員會書記　宮田政太郎

會計課

會計課長　理事官　佐野利平
屬　中井胤諱　同
同　御厨勝三　同

蓬田吉松
秋山利保

屬　岡部兼弘　同　神代德一
同　山口邦治　同　北村保太郎
同　芝田喜治　同　堀田孝
同　上田俊夫　同　渡部公光
同　坂口六右衛門　同　原潔
屬　川島亮一　同　白井勳太郎
書記　由利實　同　生野義嗣
同　橋本兵太郎　同　山田敏雄
同　角田龍三郎　同　錦織貞三郎
同　青野關太郎　同　田中治郎
同　森田橙　同　江藤英七
同　淺野佐久三　同　大北樟式
同　中林博　同　北本彌市郎
同　中村藤平　同　安間確郎
同　根川貞治郎　同　田中熊治郎
同　吉田新作　同　永井龜夫
同　井上遠二郎　同　松葉藤三
雇　倉並護一　同　和田義夫
同　西山康雄　同　安部房平
同　今木武一

營繕課

營繕課長　技師　中村琢治郎

屬　岡島興一郎　同　西口仲次郎
建築技師　松永次松　同　井上新二
同　八木幸次郎　同　村上武
同　吉澤源索　主事補　田村春松
書記　村川弘三　同　上田甚兵衛
同　宮阪理一　建築技手　江畑幸太郎
同　楠瀨激　同　片岡勇夫
同　豐島義政　同　吉良修
同　久下松太郎　同　高井芳雄
同　前田清二　同　後藤信勝
同　佐藤松治　同　今井檜治
同　神尾秀雄　同　吉田安太郎
同　川野平造　同　片倉正
同　石田繁雄　同　弓場安市
同　久保諫美　同　岡尾久吉
助手　倉堀博　建築技手　平井節雄
同　田中直藏　同　尾込秋男

建築技手　小竹茂　同　道田泰治郎
同　難波經則　同　櫻間大文夫
同　金崎敏夫　同　松浦松市
囑託　永野房吉　大阪府技手建築課勤務　武藤甚右衛門

警察部

警察部長　藤沼庄平
同　阪本森一

高等警察課

高等警察課長　警視　後藤種吉
警部　瀧石良馬　同　田村昌義
警部補　鹽澤常太郎　同　横地尙重
同　辻光治郎　同　横關助三郎
巡査部長　浦川善之助　同　村岡晴彥
同　田中忠治　巡査　清水清
同　池田源次郎　書記　山口行太郎

特別高等警察課

特別高等警察課長　警視　鈴木敬一
警部　中田善之助　同　村主政治
警部　田村吉秀　同　松村强

外事課

外事課長　警視　三橋孝一郎
警部　山本慶治　通譯　高野巽
囑託　島崎愛之助　警部補　渡邊壽次
巡査部長　安東信雄　同　渡邊安二
巡査　黑田政三　同　安岡伊代治
同　藤原利男

警務課

警務課長　警視　上柳延太郎
警部　阪本行輔　同　澤邊金三郎
警部補　鈴木薫吉　同　石瀨憲一郎
巡査部長　淺香謙三郎　同　岡田穣
巡査　河野俊三郎　同　藤井萬助
同　篠原榮藏　同　藤塚一雄
同　波多幸太郎　書記　池田美海
書記　中村錦二郎　警部　井上類助
警部補　友廣隆士　巡査部長　遠藤正治
同　水谷正友　同　堀淵重次郎

巡査部長　尾塔紋平　同　橋口重志
同　中田久二　同　衣笠仁三郎
巡査　小林竹松　同　笹山藤市郎
警部補　小松春好　同　川上平三郎
巡査　松井廓道　同　内山賢治
同　東勝熊　書記　龜井英之
書記　川村孝凞　同　森貢
警部補　池永博

保安課

保安課長　警視　渡正監

警部　上田實光　同　木村金三郎
同　遠藤直人　技師兼警部　栗原松三
警部補　龜山助一郎　同　川崎忠吉
同　太田周市　同　仲島忠次
同　檀上虎市　同　津崎常治
同　藤間復藏　同　萩家芳太郎
同　藤原一　同　織田良太郎
巡査部長　山本薫　同　米野梅太郎
同　高田米次郎　同　河上英吉

巡査部長　伊藤英雄　同　高谷信夫
同　安藤勘一　同　爲國陸三郎
同　七山四郎　巡査　櫻井重次郎
巡査　大額速見　同　深江陶治
同　沖野謙治　同　金藤格太郎
同　長谷川悅藏　書記　田中宗三郎
技師　山西清信　同　久木宜
同　西村利七　技手　片山柴郎
技手　松本勝年　同　田島清作
同　岩崎信次　同　岡野紀一
同　德重良夫　同　西村三二

刑事課

刑事課長　警視　田口易之

警部　齊藤佐一郎　警部補　太田柾九郎
巡査部長　山口貞致　巡査　土屋欣助
巡査　服部彦五郎　同　大澤寛一
警部補　小原嘉善太　巡査部長　河野林藏
同　鳥田和雄　同　三島三次郎
同　高橋享　同　篠原直矢

巡査　中西竹松　同　川村久吉
同　佐々木重任　同　野津勉一
警部補　目黒實之助　同　城戸清
巡査　三谷政吾　同　中原信武

衛生課

衛生課長　技師　上村行彰

警部　和田利忠　警部補　西谷義磨
技師　細川正勝　防疫醫　酒井雅之助
巡査部長　稻倉勝　防疫監吏　有川藤吉郎
同　佐々木義夫　同　日置三八
同　野村藤吾　技師　黑澤文七
同　植村靜　技手　林敬一
技手　栩野秀雄　同　合川憲三
同　正井鹿三　同　中野昇
警部補　川原忠夫　巡査部長　武藤秀次
警部　小湊梅太郎　防疫醫　辻豐
同　吉岡義正　同　伊藤重雄
同　小谷良慶　同　森安平
檢疫委員　門野幸太郎　防疫監吏　餅田鶴之助
防疫監吏　濱田隆治　同　中島秀三郎
同　由澤利器夫　同　西分彌兵衛
同　杉原省三　同　中村總三郎
同　辻本善平

工場課

工場課長　理事官　細川義方

監察課

警部　大松丑造　同　藥師寺柳太郎
警部補　水原貞一　同　前田覺太郎
同　八島隆孝　同　三宅爲一
巡査部長　橋本和猷　巡査　澤田政吉
書記　田中渦穗

消防課

消防課長　警視　土井米吉

警部　谷川九州男　同　梅藤松
警部補　金田茂　消防曹長　伊藤競
同　大門準藏　同　前田善次
同　吉見駿一　消防手　横田忠次郎

消防手　河合鑒司　同　内藤清七
同　明渡定一　同　上田清造
同　尾藤牧太郎　同　曾羽万治郎
同　岡島梅吉　同　四宮定太郎
同　鍛治武太郎　同　島野繁藏
同　渡邊操一郎　同　船津豐
同　藤岡涉　同　長谷喜一

警察練習所

警部　河野庄二郎　同　迫本義男
警部補　櫻本義雄　同　早稲本庄右衛門
同　滿井義雄　巡査部長　三好清一
同　國繁竹義　同　森口照房
巡査　岸本知道　同　中澤辰次郎
同　佐藤廣治

産業部

産業部長　兒玉孝顯

商務課

商務課長　理事官　坂井勝一
産業主事　西川三郎　同　石上淳一
同　末吉桂次郎　同　上田忠次
同　中村彌太郎　同　小西初太郎
同　岡田勇　同　阿保貫次郎
同　秋山米藏　同　上原錄郎
技師　田中林三　産業主事補　西野久
同　丸島豐治　同　植木眞一
同　中野清隆　同　西野甚藏
産業技手　長尾法雷　雇　岡本遼
同　吉田忠男

工務課

工務課長　技師　平佐惟一
技師　田中米治郎　同　三田寅
同　岩井好一　同　今宮武次郎
産業技師　巽正良　屬兼技手　淺井清
屬　安井安次郎　同　割田勝三
同　牧戸藤五郎　同　岡崎弘業
屬　河野三六　屬兼技手　上田直正
同　福永幾輔　技手　藤川潤

屬兼技手　竹原松太郎　技手　脇阪俊作
産業主事補　福澤新太郎　主事　伊藤熊太郎
勸業技師　片岡長信　雇　久野一郎
同　清水憲雄　同　浦野清
大阪府工業懇談會幹事　若松長愛　同書記　松浦桑一

農務課

農務課長　技師　岩根一
技師　矢野清一　同　尾崎失郎
産業技師　赤田永三郎　同　上村敏行
同　中林馮次　同　橋本亮
同　兵藤時次郎　屬　西井傳三郎
同　大岡八郎　技手　谷口英雄
同　檜原松之助　同　上村文造
同　林和四郎　産業主事補　田中博隆
同　大隈元信　同　佐藤新太郎
同　田中卯三郎　産業技手　藤井芳一
同　加藤定近　同　中島得治
同　澁川幸雄　同　門田一
同　福田榮次郎　同　家村音彦
産業技手　寺島英夫　同　柳原大治郎
同　藤尾吉一　同　稻葉增吉
同　寺西政吉　同　深江繁三
同　古塚勘助　同　松澤正二
同　田實彪一　同　辻良太郎
同　南政太郎　同　藪內實
同　西茂一　同　川內延久
同　西井良雄　雇　谷口繁
同　島倉信次　同　長尾誠一

權度課

權度課長　技師　關菊治
技師　琢磨啓一　屬　大塚實雄
技手　依藤如意　同　五島六彌
同　中尾脩　同　天川米太郎
同　影山佐九郎　同　佐藤勝太郎
同　西村多助　同　小澤富造
同　諏訪茂　同　岡本博
同　增井信一郎　同　柳澤傳一
同　大倉一　同　松田國太郎

技手　園卓彌　同　古子彌三郎
同　椎名壯藏　同　澁井一夫
同　北村運三　同　石崎良彦
同　平津清一郎　雇　永岡實一郎

港務部

港務部長　山本一

港務官　山路梅太郎　港務醫官　元村彰
檢疫醫　境直家　屬　松室久文
屬兼港吏　和田義豐　港吏　大脇與之丞
同　有馬守三郎　同　菓子田吉松
同　永山久壽一　同　中田佐七
港務技手　佐藤重藏　港務藥劑手　境昇
檢疫員　秦壽次郎　檢疫醫　齊木瑞保
港務獸醫官補　澤田與四郎　檢疫獸醫　伊藤眞志夫
雇　田邊嵩　同　河内五百助
同　中野義雄　同　山本定一
雇　瀧澤嘉一郎　同　中本市助
同　高橋英一　同　野中梶助
信號手　前田次一　同　江本隣之助
信號手　上村喜一郎　同　上村岩吉
船長　近藤丑松　同　中林龜太郎
同　山口源馬　機關長　延時保次郎
機關士　森淺吉　同　花岡卯之助
機關手　鈴木吉太郎　火夫　竹内辰右衞門
同　小池節藏　水夫　桑村萬吉
同　泉榮一　同　後藤順右衞門
同　町田孫六　同　江本豐秀
水夫　大原清太郎　同　玉松酉秋

備考　本表震災救護事務從事者氏名ハ當府直屬ノ者ノミヲ掲記セシモノナリ

大正十三年十二月十五日印刷
大正十三年十二月二十日發行

【非賣品】

編輯兼發行者　大阪府

印刷者　大阪市北區玉江町一丁目十一番地　石西豐藏

印刷所　大阪市中之島玉江町一丁目十一番地　大石堂活版部
電話土佐堀（二九五番）（四三八七番）

71-21V-4